

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
1	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>現在、平均寿命が80歳を超えるようになってきた一方で、健康寿命という考え方も注目されてきている。まだまだ、健康寿命と平均寿命の解離は大きい。住み慣れたところで天寿を全うするという観点からみると、健康寿命を少しでも延ばして、一人でも多くの人が健康な体で生活していることが、社会の活力にもつながってくると思う。高松市でも「見守り事業」等に取り組んでいるようであり、仏生山地区においても高齢者サロンや集会所を利用した健康体操などに取り組んでいるが、研修講師が不足しており、スケジュール調整しながら開催しているのが実情である。高齢者にとっては、なるべく移動距離の短いところで小集団で行うというのが望ましい姿でないかと思うので、研修講師の充実を図っていただきたい。</p> <p>同様に、認知症の問題についても、仏生山地区では今年からコミュニティ協議会と連合自治会の福祉部会が中心となり、認知症のサポーター研修や予防研修に取り組んでいるが、やはり研修講師の人数が不足しているように感じられる。総合計画や総合戦略の中に、高齢者の健康づくりや認知症に関する研修等の講師の人材充実や、研修の回数や内容の充実、開催場所の提供を盛り込んで、認知症サポーターを増やすような取組をこれまで以上に進めていただきたい。</p>	健康福祉局	市長	<p>健康寿命を延ばすことは重要と考えており、総合計画においても重要度の高い政策の一つとしている。一番望ましいのは、晩年まで元気で、寝たきりの状態は短く、長生きすることになるだろう。「健康都市高松」を目標に掲げているので、様々な事業の実施を通して、健康寿命を延ばしていきたい。</p>
				健康福祉局	健康福祉局長	<p>各地域には、保健センターの人材育成講座を修了した「元気を広げる人」や「のびのび元気体操指導者」がおり、ボランティアで地域の自主的な高齢者の健康づくりや介護予防活動を実践・支援している。健康づくり教室等開催の機会があれば、ボランティアとして「のびのび元気体操」の実施や手遊びや音楽を使ったレクリエーション等を行うことができる。</p> <p>健康づくりその他の分野での講師については、コミュニティ・スポーツ指導員がおられますほか、講師紹介の問い合わせについては、高松市ホームページ「もっと高松」の生涯学習課の生涯学習情報提供のサイトや香川県が運営している「かがわ学びプラザするするドットネット」での登録情報、また、関係機関への照会により講師情報を収集する中で、適切な講師の情報提供等を行っていきたく考えている。</p>
2	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>少子高齢化の問題にも関連するが、空家対策について質問と意見を述べたい。仏生山地区においても、年々空家が増加している。仏生山地区の連合自治会としても、高齢化対策として、高齢者サロン活動に重点的に取り組んでいるが、集会所を持ってない自治会では十分に活動できていない。そうした地区において、空家を活用して高齢者の居場所づくりをできないか。他にも、仏生山地区の観光センターや災害時用の土のうを常備する場所としての活用方法等が考えられる。ただ、連合自治会では、空き家所有者の特定、賃料負担、活用方法に応じた改築費用や修繕費用の負担等の面で課題が残っている。今後、地区で空き家を活用して各種の活動をしようとした場合に、市としてどのような支援が可能なのか。また、どのような情報は市と地域で共有できるのか。また、3月頃に高松の有線放送協会廃業のニュースがあったが、今も市道上に有線放送協会の電柱が残っているところがある。市としてどのような対応を考えているかを聞かせて欲しい。</p>	市民政策局	市民政策局長	<p>空家の問題について、高松市が平成26年度に空家の実態調査を行ったところ、戸建ての住宅が市内に約14万戸ある中で、危険度の高い空き家が約930戸存在していることが把握できた。国においては、空家等対策の推進に関する特別措置法が成立し、市町村の権限で危険な空家を撤去することが可能となる法的な裏付けができていく。また、この法律により、固定資産税の課税事務における空家等の所有者に関する情報を利用することが可能となったところである。高松市では、平成27年4月に、空き家対策関係の業務を所管する、くらし安全安心課を設置し、空家に関する相談窓口を一元化している。今後については、9月議会で高松市の空家に関する条例制定し、秋には具体的な空家対策に関する計画をとりまとめる予定としている。</p> <p>また、空家に関しては、危険対策と活用の2つの面を総合計画の中に盛り込む予定である。現在のところ、空家を活用する際に市ができる具体的な支援策はないが、例えば、国費や県費も活用して空家改修に関する補助金を交付する制度の導入なども検討しているところである。それぞれの地区によって空家の状態も違うだろうし、考えられる活用策も様々かと思うので、行政と地域がお互いに経験値を積み重ねる中で、どのような活用や支援がよりよい方法なのかといったことも、一緒に考えていかなければならないと考えている。</p>
3	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>平成30年に新しい高松市民病院ができるそうで、地元住民にとっては大変喜ばしいことである。また、各地に散在していた松平藩主代々のお墓を法然字に集まると作業も進んでいる。こうしたことから、市民病院への通院患者や法念寺への参拝客による交通量の増加が予想されている。仏生山町は門前町ということもあり、古い町並みで、狭い道路が多い。以前は、電柱地中化という話もあったようだが今は途絶えているようだし、小学生の通学路等もあり、交通量が増加する中で、有効な交通安全対策を何か考えているのか。</p>	市民政策局	市長	<p>交通安全対策については、貴重な門前町の景観保全に配慮しつつ、交通量の増加にも対応するため、カラー舗装化や交通安全設備の設置等を関係機関の協力を得ながら整備を進めていく。</p>
4	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>人口減少の問題について、江戸時代初期に約1,500万人だった人口が、明治維新期の約3,000万人を経て、今では約1億2,000万人と増え続けてきており、明治維新期と比べても約4倍になっている。戦時中では、多くの戦死者が出て減らずにいたのが、ここにきて初めて日本の人口が減少してきている。このように前例のない問題を考える場合には、原因を探っていくと、よい対策は出てこないと思うが、高松市としては人口減少の原因はどこにあると考えているのか。</p>	市民政策局	市長	<p>まず、日本全体でみると、人口が2008年をピークに減少し始めている。ご指摘のとおり、日本の人口は、江戸時代以前は横ばいであり、江戸時代で倍増し、明治以降、特に昭和以降に入ってから急激に増えた結果、現在約1億2,000万人となっている。それが、2060年には8,700万人まで減少すると言われていた。</p> <p>8,700万人という数字自体は、昭和初期の人口と同規模であり、それほど問題ではない。問題なのは、急激な減少と同時に高齢化も進行するということであり、2060年には、65歳以上が人口の40%以上を占める一方で生産年齢人口や子どもの人口の比率は今以上に小さくなる。そうなるとうと、経済の活力を維持するのが難しいということが、現在の人口問題の難しいところだと思う。つまり、当面の人口減少を食い止めようとすると同時に、少しでも子どもを多く生み育てて将来的な人口の減少も抑制することが大事になってくる。</p> <p>人口減少の原因が何かといえば、直接的には少子化であり、少子化の原因としては未婚化と晩婚化の傾向が大きいと思う。よく言われていることだが、既婚者の子どもの数はそれほど少なくないのだが、未婚の人が増えている。さらに、晩婚化が進んだ結果、体力的な問題等で2人目以降の子どもを生み育てられない夫婦も増えてきている。また、子育てに要する経済的な負担が大きいため、2人目以降の出産を躊躇している場合もある。</p> <p>高松市においても、人口全体では減っていないが、15歳以下の人口は昭和55年から減り続けている。それだけ少子化は長期間続いている問題であるのだが、移民政策を実行するというのも、すぐには難しいところがある。当面は、やはり多くの人に早く結婚してもらおうということが大切だろうということで、行政も「婚活」に取り組んだりしている状況である。少子化という問題は、短期間ではなかなか解決しないのではないかと考えている。</p>

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
5	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>まず、新病院の北側エリアの現在の青写真を聞かせてほしい。</p> <p>2つ目として、近年、高松が芸術に力を入れていることもあり、県外の若者からの注目が高まっているのではないかと推測しているが、市として、移住してくる人々の受け入れや支援をどのように考えているかを示してほしい。</p> <p>3つ目として、新病院を中心としたまちづくりにおいては、例えば、駅の改札口やトイレやエレベーター、病院への通路を広めに確保したり、道路のカラー舗装や、浸透性の高い舗装などを取り入れて、全国的なモデルにもなるような、ユニバーサルデザインのあふれるまちにしたい。</p> <p>最後に、現在のコミュニティ協議会での取組を紹介したい。ある部会では、仏生山のメインの通りに南天の鉢植えを置き、そこにみんなで作った「笑い玉」を置いて通行する人の癒しとする取組を行っている。また、この通りには、手作りのベンチを7か所作って、通行する人の疲れた体を休めるということにも取り組んでいる。ほかにも、「てったう団」というものを結成して、困りごとを抱えている70歳以上の世帯からの要請に応じて、草ぬき、ごみだし、話し相手などを行うという活動を始めた。このように、試行錯誤しながら、自分たちができることに取り組んでいる。行政とも情報共有や協力をを行いながら、ますます住みよいまちにしていきたいと考えている。</p>	市民政策局	市長	<p>日頃から、コミュニティで活発に活動し、地域の活性化に多大なるご貢献いただいていることに感謝している。</p> <p>まず、新病院北側エリアの見直しについて、現時点では、整備中の仏生山円座線用地と、その代替地、仏生山駅西側の駅前広場の整備を一体的に進めているところである。それ以外については、まだ具体的な計画とはなっていないが、全体計画の中で、総合センター用地、公園用地、高齢者福祉施設用地、児童福祉施設用地等を描いている。</p> <p>2点目の移住・Iターンについて、高松市内の中でも仏生山地区は、若者のIターン・Uターンの人多く、注目されている地域である。市としても、移住してくる人の受け入れに当たっては、相談内容を地域のコミュニティにつなぐことなどにより、支援している。例えば、空家となっている古民家を店舗に改築して営業を始めたりするような例も出てきており、少しでも利用できる市の事業があれば、是非利用していただきたい。また、芸術家のような方に地域に住み込んでもらいながら地域の文化活動を盛り上げていこうとする「アーティストレジデンス」という事業を始めることとしており、仏生山に住み込みながら芸術活動を行いたいという人が出てきた場合は、支援の対象になるかと思う。先程、総合戦略の説明の中でも触れたが、人口対策の一環として、若者にえらばれる、魅力的なまちづくりを進めていきたい。</p> <p>3点目のユニバーサルデザインについて、これだけの大規模な再開発事業である以上、バリアフリーの視点は欠かせないと考えている。これからの高齢化社会においては、高齢者にとって住みやすいだけでなく、高齢の観光客が来て楽しめる環境が必要だろう。また、最近では、高齢者だけでなく、車いすの方や子どもも安全に観光を楽しめる「バリアフリー観光」ということが、注目を集めている。例えば、砂利道の参道も多い伊勢神宮では、障害者や高齢者の方も安心して負担なくお伊勢参りができるルートの情報が観光客に行き届くシステムができています。こうした先進事例を参考にしながら、ユニバーサルデザインの視点にも立った、まちづくりを進めていきたい。</p> <p>4点目の、地域のコミュニティで様々な工夫をしながら、「おもてなし」の精神で活動していることに対して敬意を表したい。観光客をひきつけるには、ホスピタリティの精神というのが最も重要な要素であり、「バリアフリー観光」とあわせて、受け入れ側の「おもてなし」として、今後も活発に活動していただき、ご協力をお願いしたい。</p>
6	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>十河地区は、若い世代が増えているため、平均年齢は割と低く、子どもの数も多いのだが、一方で、自治会加入率はとても低い。今、地域コミュニティの活動は盛んなのだが、自治会の加入率が低いので、「ねじれ現象」のようなことが起きており、コミュニティ協議会も自治会に気兼ねしながら活動しているようなところがある。コミュニティ協議会と自治会との良好な関係を継続していくためにも、この「ねじれ現象」を解消したいと考えている。</p> <p>市の方でも、総合計画で、地域コミュニティの再生を打ち出すとのことであり、例えば、地域コミュニティの会員は全て自治会の会員となるような条例を制定するなど、何らかの強力な方策を打ち出していただくことはできないか。</p>	市民政策局	市長	<p>自治会の加入促進について、現時点で妙案を出せないのが残念ではあるが、行政と地域とがお互いに知恵を出しながら、考えていきたいので、引き続き、協力をお願いしたい。</p>
7	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>新病院の北側エリアについて、子ども対象の施設と高齢者対象の施設が、交流しやすいような配置にしたい。</p>	市民政策局	市民政策局長	<p>新病院の北側街区については、予定より少し遅れている状況であるが、2～3年前と比べると、大きく様子は変わってきているようである。現在の基本的な計画の中では、高齢者向けの施設や子ども向けの施設を想定しているが、年数も経ち、状況の変化もあるので、より具体的な計画を立てる際には、将来を見通した上で時代に応じたプランが必要だと考えている。御指摘のあった、老人と子どもとの交流ということも一つの視点であると思うので、地域住民の方とも相談しながら、仏生山地区のまちづくりをしっかりとやっていきたい。</p>
8	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>家族が新病院の北側街区の事業に携わっているが、市役所側の窓口が一元化されておらずに苦労している。民間からの提案を募集した事業ではあるが、市としても明確に方針を決めて、着実に進行していただきたい。</p>	市民政策局	市民政策局長	<p>新病院の北側街区の事業については、様々な課が関係しているが、全体的には、まちづくり企画課が集約している。新病院の整備事業は着工に向けて目途がきつつある中で、北側街区の事業についても、これまでの状態を踏まえた上で、庁内の体制の整理を行っている状況である。再開発・まちづくりの事業は、様々な条件や課題をクリアしながら取り組んでいく必要があり、庁内の連携体制をもう一度再確認した上で、事業を前進させようとしているので、引き続き、御協力をいただきたい。</p>

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
9	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>まず、地域コミュニティに関する政策・施策についての課題がある。地域包括ケアシステムのような健康福祉の分野で特に顕著ではあるが、どの政策に取り組むにしても、自治会の加入率や自主防災組織の結成率というものが必要になってくるのではないかと。市長も様々な場面で述べてはいるが、地域包括ケアシステムの構築を進めるにしても、コミュニティ活動等における地域格差を埋めていくべきだと思う。そして、どうしてコミュニティが必要かという理念を再認識した上で、コミュニティの再生を図る必要があるのではないかと。思う。</p> <p>2つ目は、生涯学習に関する課題である。私も含めて、高齢者の生きがいづくりにおいては、生涯教育が大切だと思う。市の「まなびCAN」は立派な施設だが、開館から10年以上経過しており、内容の再検討が必要なのではないか。そして、「まなびCAN」だけでなく、美術館、図書館、歴史資料館、市民活動センターと連携を図るなど、もう少し知恵と汗を絞って、創意工夫のある事業を行っていただきたい。</p> <p>3つ目は、健やかに生きるための政策・施策についてである。健康福祉局ではもちろん、頑張っているように思うが、公共交通やまちづくりの充実を図らないことには、なかなか促進できないのではないかと。特に、地域包括ケアシステムの構築にあたっては、関係各課がさらに連携を図っていくことが大事だと思う。</p> <p>最後に、世の中の情報化が進んでいる中で、市の担当者から「インターネットを見てください」とよく言われるが、高齢者にはインターネットをみることだけで負担となる場合もある。そういう点で、今日のように市民と市長が直接語る会も大事であり、市の広報のツールを最大に活かして、時代に合った広報の在り方を研究するとともに、情報の集中化に努めていただきたい。</p>	市民政策局 総務局 健康福祉局 教育局	市長	<p>地域包括ケアシステムの構築に当たっては、御指摘のとおり庁内関係機関の相互協力が必要であるとともに、地域住民・事業者・行政の相互協力が大変重要となる。</p> <p>現在本市では、地域住民・事業者・行政の相互協力を補完する事業として、地域における見守り体制を充実する「高齢者見守り事業」や、高齢者が住み慣れた地域で気軽に集える場所を整備する「高齢者居場所づくり事業」などを推進している。</p> <p>また、今後とも、地域やNPO、ボランティアなどの様々な関係機関が、自助、互助、共助、公助において、適切に役割を分担しながら相互に協力し、地域包括ケアシステムが構築が図られるよう、取り組んでいきたい。</p> <p>本市では、生涯学習施設として、生涯学習センターやコミュニティセンターのほかに、図書館や資料館、美術館、総合体育館、市民活動センター、男女共同参画センター等の施設を設置している。</p> <p>今後は、より一層、各生涯学習施設間のネットワーク化や、機能の充実を図るとともに、施設の特徴を生かしながら、より効果的な活用が図られるよう、事業の充実に取り組む。</p>
10	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>少子高齢化の問題にも関連するが、空家対策について質問と意見を述べたい。仏生山地区においても、年々空家が増加している。仏生山地区の連合自治会としても、高齢化対策として、高齢者サロン活動に重点的に取り組んでいるが、集会所を持っていない自治会では十分に活動できていない。そうした地区において、空家を活用して高齢者の居場所づくりをできないか。他にも、仏生山地区の観光センターや災害時用の土のうを常備する場所としての活用方法等が考えられる。ただ、連合自治会では、空き家所有者の特定、賃料負担、活用方法に応じた改築費用や修繕費用の負担等の面で課題が残っている。今後、地区でき家を活用して各種の活動をしようとした場合に、市としてどのような支援が可能なのか。また、どのような情報は市と地域で共有できるのか。また、3月頃に高松の有線放送協会廃業のニュースがあったが、今も市道上に有線放送協会の電柱が残っているところがある。市としてどのような対応を考えているかを聞かせて欲しい。</p>	都市整備局	都市整備局長	<p>高松市有線放送電話協会が3月末に廃業し、市道上も含めた市内各所に同協会の電柱が残った状態になっている。高松市としても、どう対応すべきか検討している段階である。現在のところは、市道上に残されている電柱の正確な本数や、そのうち特に危険性の高い電柱の状況等を把握した上で、市議会とも協議しながら具体的な対応策を検討していきたい。いずれにしても、危険性の高い電柱については除去する方向性で検討していきたい。</p>
11	H27.7.29	仏生山コミュニティセンター	<p>平成30年に新しい高松市民病院ができるそうで、地元住民にとっては大変喜ばしいことである。また、各地に散在していた松平藩主代々のお墓を法然寺に集まると作業も進んでいる。こうしたことから、市民病院への通院患者や法念寺への参拝客による交通量の増加が予想されている。仏生山町は門前町ということもあり、古い町並みで、狭い道路が多い。以前は、電柱地中化という話もあったようだが今は途絶えているようだし、小学生の通学路等もあり、交通量が増加する中で、有効な交通安全対策を何か考えているのか。</p>	都市整備局	都市整備局長	<p>道路の整備は計画的に進めているところである。</p> <p>一方で、電線地中化自体は、景観面や災害時対策の面で大変有効な取組だが、費用が極めて高いために、日本は比較的遅れている状況にある。当然、市や県だけでできる事業ではなく、電力会社等とも協力して、費用も分担しながら行う必要があるのだが、ある程度の電力需要がないと電力会社からの協力は得られにくいということもある。また、変圧器等をどこに設置するかという物理的な問題も大きい。一般的に車道と歩道が分離していないと、電線地中化に必要な変圧器等の設置が難しいということもある。</p> <p>このように、経費的な面と物理的な面の両面から、電線地中化はなかなか現実的な話として進まないと認識している。</p>